

第3節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 医学部附属病院多用途型トリアージスペース整備事業(本体工事)に伴う立会調査

調査地区 小串構内外来診療棟南東側空地

調査面積 170㎡

調査期間 令和3年6月10日

調査担当 横山成己

調査結果

令和2年度末に、小串構内外来診療棟南東空地に多用途型トリアージスペースを新営する事業計画が提出された(図31)。計画地点は、小串構内の東を南西に流れる真締川に隣接していることから、氾濫原であり埋蔵文化財が遺存する可能性は低いと思われたが、小串構内の広範囲において確認されている近世の耕地化に伴う客土の存否を確認する必要があることから、令和2年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和3年3月31日(水)開催)にて立会調査の実施が諮られ、承認された。

調査の結果、現地地表下230cmまで造成土であることが確認されたが、その直下に近世の客土である明青灰色(5PB7/1)砂質シルトが存在することが明らかとなった。不安定な地盤を耕地化するためか、客土は他地点より厚く設けられており、現状で50cm以上の厚みを有することが確認できた。安全確保のため、調査は南壁の一部の断面精査にとどめたが、十分な成果を得るに至った。

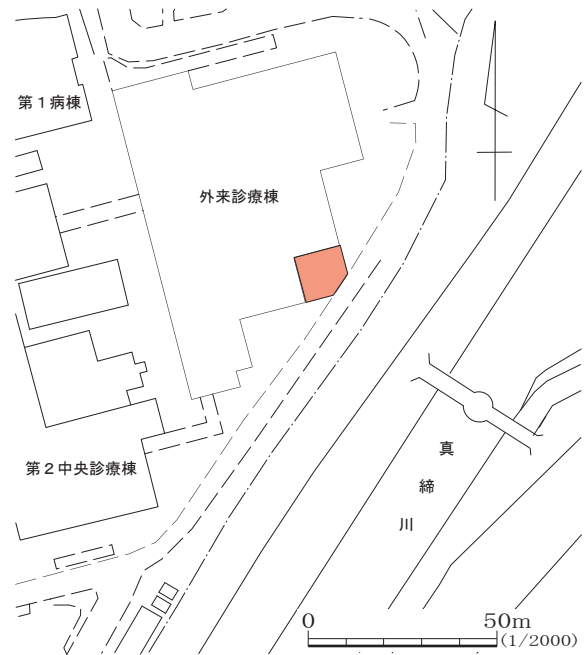


図 31 調査区位置図

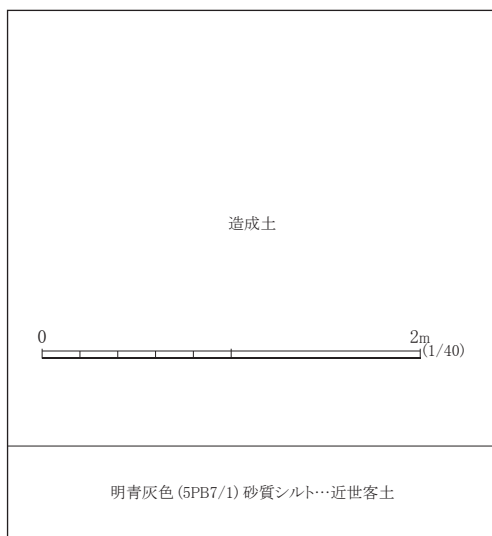


図 32 土層断面柱状図



写真83 調査区南壁土層断面(西から)